ふ　る　さ　と

第　5　号

岡上の営農団地　（会員の投稿）

目　次

麻生ふるさと交流会の２年目を迎えて ……（1）
2014 年度･第 2 回定期総会　……（2）
麻生区助成金事業の登録について　……（4）
富士塚･アンテナショップ巡り ……（5）
★ふるさと投稿★
　みちのく一人旅 ……

（8）
私の心の風景･満濃池　……
（10）

発行：2014 年 10 月 11 日　（第 5 号）
発行：麻生ふるさと交流会事務局
担当：平塚 征英 横田 彰夫

麻生ふるさと交流会

平成 26 年度麻生区地域コミュニテイ活動支援事業の助成を受けて実施しています。

「麻生ふるさと交流会」ホームページ
http://web-asao.jp/hp2/asao-furusato/

麻生ふるさと交流会の２年目を迎えて

松本　良樹

麻生ふるさと交流会は２年目を迎え、既に半年が経過しました。
ここで、本年度の活動をふりかえってみたいと思います。

新年度早々の４月２４日には、昨年度の麻生区地域コミュニティ活動支援事業の助成金についての報告会が「やまゆり」で行われました。
本会からはパワーポイントによる活動内容の報告の他に、『百聞は一見にしかず』と私から審査員の皆様に会報「ふるさと」を回覧して見て頂きました。審査員のお一人から、懇親会で飲んでばかりの会かと思ってたが、きちんとした活動を行っており、昨年度の審査会の際に抱いていた懸念が無くなり見直しました。とのお言葉を頂きました。

４月２９日には第２回(2014 年度)定期総会を開催し､空席となっていた事務局長には宮本さんが就任することを承認して頂きました。恒例の懇親会も新たな参加者も含め、ジャンケン取切り戦もあり、大いに楽しんで懇親を深めることが出来ました。

昨年度に続き助成金の獲得を目指し、助成金申請書を５月中旬に提出し、５月２９日の公開プレゼンテーションに臨み、今年度も助成金団体として登録されました。この経緯等については宮本さんからの報告を参照願います。（本号 p.4）

６月３０日には本年度の新企画としての懇親バスツアーを、３７名の参加者のもとで開催しました。昨年度のお国自慢で紹介があった都内の富士塚とアンテナショップ巡りを、東京グループの皆さまのお世話で行いましたが、この企画を通じて７名の方が新たに入会された事は、大変うれし事です。詳細は横田さんの報告を参照下さい。（P.5）

７月２３日から「麻生ふるさと交流会」のホームページ（HP）が一般公開されました。会の名称で検索すると、我が会のＨＰは一番上に出てくるとの作成者の平塚さんの説明です。ＨＰは更新作業が大切ですので、皆さんの投稿等ご協力をお願い致します。

８月１２日には、１０月１１日開催のお国自慢発表のための打合せが有志によって行われ、その後運営委員会が行われました。終了後には、運営委員と打合せ参加者とが暑気払いを行いました。

（麻生ふるさと交流会　会長）

http://web-asao.jp/hp2/asao-furusato/

平成 26(2014)年度・第２回定期総会

場　所：麻生市民交流館　やまゆり
日　時：平成２６年４月２９日(日)
参加人数　33 名　懇親会も参加　29 名

第 1 部 麻生ふるさと交流会　定期総会　(15：00～16：00)　　(敬称略)

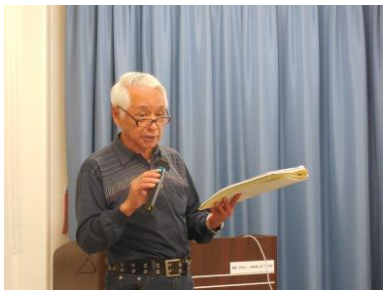
1. 開会の辞・・・・・辻村副会長
2. 議長挨拶・・・・・松本会長
3. 平成 25 年度　活動報告・・・・松本会長(活動内容報告・・横田)
4. 平成 15 年度　決算報告及び監査報告・・・吉田・白石
5. 新年度運営委員の選出・・・・空席と成っていた事務局長に宮本氏を選出
6. 平成 26 年度　活動計画・・・・宮本事務局長
7. 平成 26 年度　予算計画・・・・吉田
8. 質疑応答
9. 閉会の辞・・・・・辻村副会長

開会の辞

議長挨拶・活動報告

活動報告

活動報告・ﾊﾟﾜｰﾎﾟｲﾝﾄ


決算報告

監査報告

活動計画

予算計画

閉会の辞

第 2 部 懇親会　(16：30～18：30)

- 乾杯・・・・富岡製糸場世界遺産登録を記念して竹市さん。
- 今回も懇親会に際し、差し入れを頂戴しました。（敬称略）

日本酒（宗玄、魚沼）、ワイン　……鈴木、宮本、田中（元）

おつまみ、タケノコ煮物
いなり寿司とサラダ、ふきの煮物　}　……松本(良)、平塚、五十嵐、三田村

田中(幹)さん提供の大相撲番付ジャンケン取切り戦。結果は高橋・片嶋さん。

初参加は、白浜輝允さんと仙石芙蓉さんの２名。

麻生区助成金事業の登録について

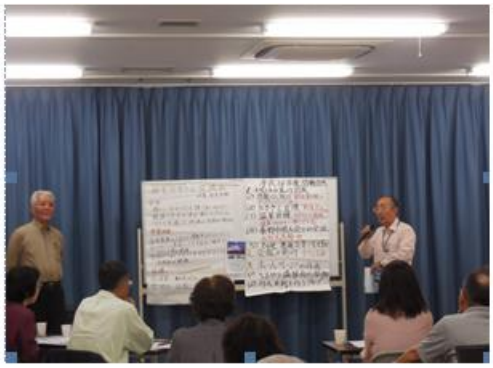
宮本　直紀

昨年に続き助成金の獲得を目指し、運営委員と総会で決定した活動方針・計画等の詳細打ち合わせを行い、平成 26 年度麻生区地域コミュニティ活動支援事業の助成金申請書を５月中旬に提出し、5/29 の公開プレゼンテーションに臨みました。

プレゼンでの発表順番は８団体中７番目で、各団体とも採点のポイントとなる事業の「公共性」「具体性」「発展性」「実行力」で優劣がつけがたく、どうなることかと思っていましたが、支援をいただけることとなりました。

当会の活動方針・計画の具体性とともに、２年目活動の違いを強調し、「今年度は、お国自慢発表イベントを更に活発に行うと共に、バス旅行等を通じて会員数の増加を図る。将来の県人会組織立上げ準備のため、秦野市県人会との交流を図る。」を加えました。
また、昨年の活動実績、特に会報誌「ふるさと創刊号～第４号」を示したことが、審査委員の高評価を得られた結果と思います。

助成金の使途は、主に会場費および機材の使用料・講師謝礼・印刷費などになります。
他にも６団体が支援を受けられることになりました。詳細はやまゆりのホームページをご参照ください。



（事務局長）

富士塚・アンテナショップ巡り

横田　彰夫

本年度第２回目のイベントは、６月３０日（月）に３７名の出席のもと、都内の富士塚とアンテナショップめぐりの懇親バス旅行が行われました。

８時２０分区役所前広場に集合、バスは予定通り８時３０分に出発し、川崎インターから首都高経由、池尻から山手通りに下り、渋滞もなく今日の富士塚めぐりを祝うかの如く順調な旅でした。宮本さんの司会で始まり、松本会長の挨拶、東京グループの吉田・海崎さんから富士塚とアンテナショップの説明。会員以外の参加者から自己紹介がありました。（このイベントにより、多くの方が入会される事になったそうです）

＜品川神社＞

富士塚とは富士信仰に基づき、富士山に模して造営された人工の山や塚です。富士講が盛んになっても、当時の江戸の庶民にとって、富士登山は並大抵のことではなかった。安永９年高田藤四朗が高田に建てたものが最古とされ、以後各地に築造され江戸の庶民に“富士登山”が手軽なものになった。

品川神社は後鳥羽天皇の時代文治三年（1187 年）に、源頼朝が海上交通安全と祈願成就の守護神として、安房国の洲崎明神である天比理乃咩命（あめのひりのめのみこと）を勧請して、品川大明神と称し今は社名を品川神社と改めた。

５３段の階段を上るとそこは富士山の一合目、そこから登山を開始。階段を３・４段登るとすぐ二合目。やがて車でも登れる？五合目のお中道。その先は岩山をゆっくり進めば、七合目、八合目と背の高さが過ぎるごとに九合目から頂上へと進みます。品川神社の富士塚は、都内で最も高く１５ｍもあるのです。

頂上からはすぐ下が国道１５号、車が轟々と音を立てて流れています。見渡せば品川の新市街、ウオーターフロントのマンション群でした。

＜茅の輪くぐり＞

今日巡った三か所の神社では、ともに茅の輪くぐりが行われていました。６月３０日は夏越祓（なごしのはらえ）にあたり、茅の輪をくぐる事によって、半年間の汚れを祓い清めて無病息災を祈願する行事だそうです。

今まで経験した事のない八の字に周ります。ここで拝礼の仕方を紹介しましょう。

① 茅の輪の前で一礼します。
② 最初は、左にまわります。
③ 茅の輪の前で一礼して、次は右にまわります。

④ 茅の輪の前で一礼して、次は左にまわります。
⑤ 最後に拝殿で一礼します。
これを３回繰り返します。

品川神社の裏には板垣退助墓所があり、一番奥に板垣退助の墓が、その奥には「板垣死すとも自由は死せず」の石碑（佐藤栄作書）がありました。

＜銀座アンテナショップ巡り＞

有楽町の鍛冶橋パーキングには予定より早く 10:45 到着。「まるごと高知」までは幹事さんの案内で団体行動。それ以後は 13:00 の集合時間まで、地図を片手に皆さんが自由行動。沖縄、富山、それから交通会館の中のショップ、兵庫、福岡、北海道、等々。新橋の愛媛、香川のうどんを食べに行って、集合時間に遅れた郷土愛の強い面々も。

次の下車場所までは、アンテナショップで購入した品々の紹介も含む自己紹介。本当に幹事さんは、皆さんが話しやすいような司会が上手です。

＜小野照崎神社：下谷＞

ここの富士塚は高さ５ｍ、直径１６ｍで、富士の溶岩で覆われ、東北側一部が欠損しています。アッ！危ない落石です！５０センチほどの溶岩が、登山者の足元へ落下。原形保存状態が良好な富士塚は東京には少ないのでこの塚は貴重。落石防止には注意したいものだ。国の重要有形民俗文化財に指定されていることが特徴。

＜鳩森神社：千駄ヶ谷＞

鳩森神社は『江戸名所図会』によると、大昔此の地の林の中には瑞雲（ずいうん）がたびたび現れ、ある日青空より白雲が降りてきたので不思議に思った村人が林の中に入っていくと、突然白鳩が数多、西に向かって飛び去った。この霊瑞（れいずい）に依り、神様が宿る小さな祠（ほこら）を営み鳩森『はとのもり』と名付けた。

この富士塚は関東大震災以後に修復されているが、築造当時の旧態をよく留めており、東京都内に現存する富士塚では最も古いことが特徴とのこと。

＜新潟県アンテナショップ：表参道＞

今日の最後のアンテナショップは表参道の新潟県。さすがに食べることと飲む事にかけては猛者ぞろい。ショップで酒の肴と新潟名物のお酒で疲れを癒し、奥のテーブルには数人の先客がいましたが、我々が座ればいつの間にか、そこは交流会のメンバーであふれ独断場。他の方の入り込む余地は全く無くなりました。

表参道はさすがに大型バスが駐車するスペースがなく、やむを得ずバスはその先の先へ。

女の子たちがスマホを打ちながら列を作って待っている。ポップコーンで有名な店だったそうな。

帰りのバスの中は宴会場、カラオケに始まり、ダジャレのアラシ。北の旅人、与作、麦畑など自慢ののどを披露しバスは早くも新百合へ。早く着きすぎたのと駐車場の関係か、山口台を右に曲がると思ったら柿生経由新百合へ。

今日は大変お疲れ様でした。

みちのく一人旅

新井　稔弘

私はどこの国にいるのか？　2000 年 6 月より仙台支店に赴任し東北 6 県の医療機関や医薬品卸会社の人たちと面談しだした。とある県での人たちとの面談時に、相手は変わるが異口同音に「それはマイネ（meine ドイツ語？）ですね」とか「それはマネジャ（manager 英語？）」という返事が返ってきた。

一瞬私はドイツにいるの？、アメリカにいるの？ここは東北だよねと自問した。また、マイネとかマネジャの意味も分からず東北とはなんと言語では発達している県だと一人感心した次第です。その町は青森県弘前市であり津軽と称される都市でした。

マイネ・マネジャとは津軽弁で「だめ」の意味で、マイネは最も軽い否定語でありマネジャは最も強い否定語（絶対にだめ）と親しくなってから教えてもらいました。マイネとマネジャの間には、口調によって 5 種類の否定語になるそうで津軽の人以外では区別できないそうです。

ちなみに青森市・八戸地域では南部弁になり、南部の人でさえも津軽弁は分かりにくいそうですので、東京からきたら当たり前と安心しました。付き合いが長くなり津軽の方との飲み会時では、飲み始めは津軽弁が分からないことを理解頂き話口調も緩やかですが、酒が入ってくると元来の早口で口元も小さくなり、もうドイツ語かフランス語か英語か分からなくて「はい？」と聞き返すと、顔をしかめられることも多かった（まだ修行不足だとその時反省します）。

しかしこれは親しくなった証であり、旅の人である私も受け入れて頂いたことと思っています。嫌いな人とは飲み食いもしないので、しかし津軽の方たちは情が熱く深く、いったん心を許して頂くと身内と同様の扱いをして頂けます。ただし旅の人という根本的な見方は変わりませんが（これは転勤族でなく津軽に永住すると、旅の人という見方はなくなるのですが）、本当に居心地がよくなります。ほっとします。

その方たちとは今も友としてお付き合いをさせていただいています。津軽弁に「じょっぱり」という言葉があります。強情という意味ですが、一本筋金の入った良い意味での強情者と私は理解しています。「じょっぱり」の人たちは人間味があり、物事に打ち込むと何事もてっぺんを目指そうと努力されます。ゴルフ、車、写真などでも向学心の強さには感心しました。その「じょっぱり」である方も、昨年に他界されましたが、自費出版された 3 冊の津軽地域の写真集（各写真に俳句がそえられています）を見ながら、晩酌をして飲みすぎてしまいます。

因みに通常は健康管理上、安ワインか泡盛・焼酎ですが、この写真集を肴にする時は当然、日本酒「じょっぱり」です。飲んでは正月の八甲田のスノーモンスター、結氷した十和田湖や春の奥入瀬・十和田湖（新緑は淡い萌黄色で最高です。残雪とのコントラストもいい），秋の紅葉もぶな林が多く黄色の絨毯と木立のシルエットを思い出します。

津軽だけでなく青森県は八甲田・十和田湖・奥入瀬（弘前、青森からすぐ行けます）だけでなく、真冬の金木（地吹雪体験ツアー）、まさかり半島の恐山、大間の本マグロ（ここで食べても高い）、八戸の八食センター（サバ、イカ）、朝市、陸奥湾の真鱈、ヒラメにホタテ、温泉では酸ケ湯、浅虫温泉ほか多くあります。夏は青森のねぶた、弘前のねぷたは大混雑です。

私の第二の故郷は東北 6 県全てと思っています。今回は青森県の思い出を紹介しました。じょっぱり・田酒・桃川、今ならホヤで一杯飲みたいなあ。おばんでした。

私の心の風景・満濃池

横田　彰夫

「私の心の風景は、弘法大師が作ったと言われる満濃池です。
これは、平成 24 年 10 月 29 日放送の「NHK - BS 火野正平のこころ旅」の番組で、小生の投稿が採用された文章の書き出しです。

日本一大きな溜め池は満濃池(仲多度郡まんのう町)です。
私のふるさと香川県には大きな河川がなく、灌漑のために大小約２万もの溜め池があると言われています。
満濃池は周囲 20Km、池面積 1.4Km2、雨の少ない瀬戸内の平野の水不足解消のため、西暦 821 年ころ弘法大師が中国で学んだ技術で、決壊を繰り返す堤防を改修したと言われています。

私の生まれ故郷はこの満濃池から歩いて数分という所、小さな頃からの遊び場所でした。小学校の頃(昭和 28 年)に堤防はかさ上げされ、以前とは大分様子が変わりました。現在堤防の左手に小さな島が見えますが当時は堤防につながった小さな小山でした。
満濃池を訪れては小山でチャンバラごっこをして遊んでいました。堤防のかさ上げで水位は上がり小山は小島に取水塔もレンガ造りからコンクリート造りに変わりました。
水位が上昇するまでは、水辺にせまる谷戸は水田、堤防のかさ上げ後は水没してしまいました。夏の暖かい水辺には鮒が寄ってきます。釣り竿で釣ったり、パンツ一枚で魚を追いかけたものでした。

毎年６月中旬に丸亀平野の田を潤す満濃池の初夏の風物詩、「ゆる抜き」が大勢の見物客を集めて行われます。毎秒４トンの水が放出され、ゴーゴーと大きな音をたて下流に流れ、ある人は拍手喝さいある人は水の先導人に成った如く自分の田畑の方向へ水を案内します。

堤防のかさ上げをするまでは西隣に新池、新池から満濃池に幅４メートルくらいの水路があり、新池のあふれた水が満濃池に流れ込んでいました。

その水路に誰の所有か、伝馬船がいつも隠されて係留されていました。

我々悪ガキどもは隠された伝馬船の櫓を見つけ出し数人で漕ぎだし、夏は伝馬船から満濃池に褌一丁で飛び込み、冬には七輪を持ち込み餅など焼き空腹を満たしたことも今となっては楽しい思い出です。

子供のころの記憶として、伝馬船はとてつもなく大きいもの、4～5 人で水路から引き出し、一人では扱えないほどの櫓、船の幅はどう考えても 3 メートル、船の船首には船室もあり、夏はその中で褌に着替え子供たちの秘密の場所となるのは自然の成り行き。

長さは 10 メートル以上、元々付近の山から切り出す材木の運搬に活躍していたものでした。現在は水路も満濃池の満水時には水がたまり、新池と満濃池はつながり一つの池になります。

近くの神野神社（かんのじんじゃ）には満濃池の守護神が祀られています。神野神社は宮大工であった私の叔父が、棟梁として堤防のかさ上げ工事の時に建築工事を行ったと聞いています。

四国お遍路の際に、満濃池から下る途中でふるさと風の良い景色がありました。後で聞いたら横田家の墓地と、遠方に実家が写っているそうです。（編集者：注）